

模擬授業案(情報活用能力)

船橋市立若松小学校 渡辺拓也

○6年生 道徳 銀のしょく台(「レ・ミゼラブル」より)

- ①最近あった「許せないこと」をロイロノートで集計する。
- ②「許せないことがあったときに、どうすればいいのか考えよう」というテーマを設定。
- ③『銀のしょく台』を途中まで読む。(銀のしょく台を盗んだジャンが憲兵に捕まり、司祭が声を掛ける前)
- ④3～4人の班で、司祭がジャンにどう声を掛ければ、嫌な思いをしないか司祭の台詞を考える。
- ⑤考えた台詞を Copilot に批判させる。

〈Copilot へのプロトコル〉

- (1)以下のあらすじは、「銀の燭台」という話の途中までです。まずはあらすじをインプットしてください。
1815 年 10 月のこと、フランスの片田舎、ディーニュの町に一人の旅の男がトボトボと歩いてやってくる。歳は五十前後、着ている服はボロボロである。どこの宿屋へ行っても断られ泊まる場所がない。教会の前の広場に石のベンチがあり、その上に横になる。するとその教会から一人と老婆が現れ、「こんなところで寝ていては身体を壊しますよ」と話しかけてくる。男は金が無い事を打ち明けると、老婆はあの青い屋根の家へいったらどうかと言う。

男は青い屋根の教会へとやってきて、扉を叩き、中に入る。部屋には大きなテーブルがあり、そこには 70 歳くらいの老人(ミリエル司教)が座っている。老人の後ろには 60 歳くらいの女性が2人おり、一人はマグロワールという家政婦、もう一人は老人の妹であった。部屋に入り、男は一方的に喋りまくる。「俺の名はジャン・バルジャンだ。ついこないだまでツーロンの監獄に入っていた前科者だ。今日は 13 里も歩いて疲れ果てた。ここに泊めてくれ」。老人はここは宿屋ではなく教会だが、どうぞゆっくりここで休んでください、これから一緒に食事を取りましょうと言う。ジャン・バルジャンは喜ぶ。夕食はなんと質素であった。これなら馬方の方がましではないか。食事が終わって、ジャン・バルジャンは銀の燭台を借りて部屋へと入る。

このジャン・バルジャンはパリの東方、ブリーの町で百姓の子として生まれる。25 歳の時に姉の亭主が亡くなって、7人の子供の面倒をジャン・バルジャンがみるようになる。しかし働いても働いても暮らしは上向かない。冬のある日、仕事もなく金もない。子供たちは腹が減ってしょうがないという。そこでジャン・バルジャンはパンを泥棒するが、捕まってしまう。パンを1つ盗んだだけで5年の刑を受けツーロンの監獄に入れられる。何度か脱獄を試みるが、そのたびに刑を増され、合計で 19 年間も監獄に閉じ込められる。その間に人間不信になり、すっかり心も荒んでしまった。

部屋に入って、グッーと寝込むが、夜中に目が覚めて眠れなくなってしまった。ふと思いついたのは先ほどの銀の燭台である。邪(よこしま)な考えが思い浮かんだ。老人を殺してしまおうかと思ったが、月明りに照らされた老人の穏やかな顔を見て思いとどまった。そうだ、銀の皿だ。食器棚から銀の皿を取り出し、それを布袋に入れて塀を乗り越え教会から抜け出す。街角に差し掛かると、「待て」と3人の憲兵に呼び止められる。袋の中を改められ、銀の皿が見つかる。「これはどうしたんだ」「貰ってまいりました」「お前みたいな男にこんな高価な物をくれる訳がないだろう」、憲兵に両腕を掴まれて先ほどの教会に引きずり込まれる。

- (2)この後の質問で、司祭のセリフを想像して書くので、沢山の人(ミリエル司教や家政婦のマグロワール、司祭の妹や憲兵)が不幸にならないかどうかを判断し、改善点があったら示してください。あなたは、まだ意見や台詞を書かないでください。

(3)各班での台詞(状況に応じて、何度か生成 AI に質問する)

⑥どんな台詞になったのか班ごとにロイロノートに提出。

⑦物語の続きを読み、正しい台詞を Copilot に読み取らせる。

〈正しい台詞〉

「ほう、あなたでしたか。またお目にかかれてよかった。ところで、どうなさったのかな。あなたに、銀の食器と一緒に、燭台も差し上げたのに。どうして持っていらっしゃらなかったのかな。」

⑧改めて「許せないことがあったときに、どうすればいいのか」を考える。